



広島市立安佐市民病院広報紙

—第23号—

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目1-1

TEL: 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

皆様に安心して療養していただくために



医療安全管理室
専任リスクマネジャー
和名谷まり子

皆さん、こんにちは。私は医療安全管理室の和名谷と申します。リスクマネジャーとなつて早や5年になります。看護職30年の経験を生かし常に患者さまの安全、医療者の安全を考えながら医療安全相談やセーフティマネジメントを行っています。

安全を最優先とした医療・ケアの提供は医療者のみによる取り組みだけでなく、患者さま・ご家族の皆さまの主體的な参加をもつてより確実なものになると考えております。今回は、皆さまが安全に安心して療養いただくための14項目を紹介いたします。

【不安なことやわからないことはそのままにしないようにしましょう】

診断・検査・治療などで不安なことやわからないことはそのままにしないで、担当医師や看護師に気軽にお聞きください。質問事項を予め紙に書いておくとう便利です。

【できるだけ二人以上で説明をききましょう】

医師からの説明は、お一人ではなくて出来ればご家族等と一緒に聞きたい。また、まとまった説明をお聞きになりたいときには、ご希望の日時を看護師等にお話しください。担当医師と連絡をとり説明日時の調整を行います。

【写真や図、絵などがある場合には見せてもらうようにしましょう。説明書ももらいましょう。】

人のからだの仕組みは大変複雑です。説明時には、写真や図、絵などがある場合には見せてもらいましょう。説明書ももらいましょう。

【ご自身の意思表示は明確にしましょう】

輸血に関する希望、宗教的なこと、ドナーカード、人工呼吸器の使用など意思表示がある場合には、医師・看護師に伝えてください。患者さまの意思表示が明確かつ有

効に示されている場合は、その意思を尊重します。ご本人の意思表示が不明な場合は、ご家族のご希望をお聞きます。

【セカンドオピニオンについて】

入院中や退院後に「他病院の医師の意見を聞いてみたい」ということがあります。重大な決断をしなければならぬ状況に至ったとき、主治医のみでなく専門医に相談したいと思うのは当然のことです。「主治医に失礼になるのでは・・・」と思われるかもしれませんが、心配はまったくありません。セカンドオピニオン（「第二の意見」とも言い、診断や治療方針について主治医以外の医師（特に専門医）の意見を聞くこと。）で、納得できる治療法を選びましょう。

【かかりつけ医について】

当院はかかりつけ医を推奨しております。かかりつけ医があればお教えください。病気のこれまでの経過や、お薬の内容などお聞きすることがあります。ご持参のお薬は検査・処置・治療に差障りがないか、薬剤師が処方内容を確認します。

【患者氏名の誤認防止、注射や投薬の誤り、左右の誤り、輸血事故などの防止】

患者氏名の誤認防止、注射や投薬の誤り、左右の誤り、輸血事故などを防止するため出来るだけ自分から氏名・生年月日を名乗ってください。点滴ボトルや飲み薬などお薬に自分の名前が書いてあるか確認してください。輸血のときは、できるだけ自分の氏名・血液型をご確認ください。入院時、リストバンドを装着します。点滴時・輸血時・採血時リストバンドでの認証業務にご協力ください。

【転倒・転落の防止について】

患者さまの状態・病気によっては転倒・転落の危険が生じることがあります。転倒・転落などの危険防止のために、必要に応じてベッドの工夫、薬剤の投与、抑制等の危険防止対策を行います。危険が予想される場合、付き添いなどご家族のご協力をお願いすることがあります。

【院内感染の防止について】

病院内には、いろいろな病原菌を持った患者さまが入院されています。入院時、すでに頻回の下痢、嘔吐、発熱、咳などのあ

る方は早めにお知らせください。重症の患者さま、抵抗力の弱い患者さまは感染しやすい状態になっています。とくに風邪、伝染性疾患、免疫の発達していないお子様、面会はひかえるなど院内感染防止にご協力ください。病室では、手の消毒などご家族・ご面会の方にもご協力をお願いいたします。方法は看護師が説明します。

【相談窓口について】

社会福祉制度、経済的な問題、医療費助成制度に関すること、社会復帰に関すること、他の医療機関への紹介などについて相談に乗ってほしいということがあります。また、医師が総合相談室でお話をうかがいます。担当医師が看護師にお話しください。また、診療や看護内容に関する疑問や不信、医師等に話せないことなどを相談できる「医療安全相談窓口」を南館3階医療安全管理室内に設置しています。専任リスクマネジャー（看護師長）が対応します。相談された方に不利益になるようなことはありません。お気軽にご相談ください。

【投書箱「皆さまの声」について】

各病棟、外来に投書箱「皆さまの声」を設置しておりますのでご意見がありましたらなんなりと投函してください。ご意見の中から改善された事例を「まめでがへんす」で紹介しています。

【他の患者さまへの配慮】

快適な療養ができるように「入院のご案内」をよくお読みください。他の患者さまの迷惑となる行為はご遠慮ください。

【患者さまの安全】

医療従事者は、入院患者さまの安全を第一に考えて行動します。患者さまの状態によつては、はさみなどを一時お預かりするが、持ち帰っていただく場合があります。不審者をみかけたらすぐに職員に連絡してください。

【施設・設備について】

当院は開院より28年余りが経過しており、施設・設備の点で、皆様にご迷惑やご不便をおかけする事があると思えます。皆様が安心して、療養することができるようにお手伝いいたします。ご遠慮なく気軽にお声をおかけください。

診療科紹介シリーズ

「産婦人科」

産婦人科医師不足が世間を賑していますが、広島県でも例外ではありません。ここ10年で、広島大学関連病院の産婦人科勤務医は約1割減少しています。さらに、産婦人科女性医師の割合も約半数を占めるに至り、各自の妊娠、出産、育児のため、フルタイムで勤務できない現実があります。残された勤務医は過酷な勤務を強いられ、ひいては勤務医を辞する、さらに残された勤務医に負担がかかる…という悪循環が進んでいます。このような状況から、庄原、安芸津、瀬戸田、大竹といった地方病院では相次いで分娩の取扱いを止めました。あまりマスコミ的報道されていませんが、産婦人科医師の高齢化も問題です。現状の打開策として挙げられるのが、産科施設の集約化と勤務医雇用条件の改善です。各病院が独自にあるいは地域全体と連携しながら、これから医師を目指す学生、研修医に対して、魅力ある職場であることをアピールし、情熱を持った産婦人科医の仲間を増やして行きたいと考えています。さて、当院の産婦人科はどうでしょうか？

当院は広島市北部の基幹病院であり、6名でスクラムを組み、幅広く産科、婦人科診療に情熱を注いでいます。産科診療の特徴は、いつ異常分娩が生じ、緊急事態が発生するのかが予測できないことです。当院では、麻酔科、小児科、そして手術室の支援の下、夜間でも安心して迅速に帝王切開が行えます。一方で、産科診療から切り離せないのが早産です。残念ながら当院はNICU（未熟児集中治療室）がないため、35週未満の早産管理は困難です。現時点ではそのような場合には市内の周産期センターに転院していただいております。婦人科診療では、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、子宮脱などの良性疾患はもとより、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの婦人科悪性腫瘍も積極的に治療を行っています。婦人科癌治療においても、ガイドラインの作成、専門医制度が整備されています。当院でも3名の日本婦人科腫瘍学会専門医が在籍し、診断から治療まで、エビデンスに基づき、なおかつ高度な診療が提供可能です。さらには、新たなエビデンスを構築すべく、JGOG（NPO婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構）などの全国レベル、SGSG（三海婦人科癌スタディーグループ）などの地方レベルの臨床試験に積極的に参加しています。治療方針に関しては週3回のカンファレンスで症例検討することとし、チーム医療を展開しております。患者様に、安心して満足した医療を提供できるよう、師長をはじめとした外来、病棟スタッフとともに日々努力しています。

産婦人科外来

1日約70名の外来診療を3診制で行っております。予約患者様優先で、お待たせしない診療を心がけておりますが、午前中の病棟での分娩、緊急手術、また、救急患者の受け入れなどで、時間通りの診療ができないことも多々あります。



平成20年診療実績

分娩数714件：帝王切開率20.0%

手術件数525件 うち 腹腔鏡下手術39件(7.4%)

悪性腫瘍症例（0期症例：上皮内癌、異型内膜増殖症を除く）

子宮頸癌14例、子宮体癌14例、卵巣癌（境界悪性腫瘍含む）21例

外来担当医（♥は女医）

	月	火	水	木	金
1 診	大下	三田尾	谷本	三田尾	永井
2 診	三田尾	永井	大下	谷本	伊藤♥
3 診	谷本	大下	永井	秋本♥	三田尾

専門家紹介シリーズ

認定血液検査技師

臨床検査部 中島 静



病気をみつけるために、さまざまな検査を行います。

その中の代表的な検査に血液一般検査や血液凝固検査があります。

血液一般検査では白血球、ヘモグロビンや血小板などを測定し、顕微鏡で細胞を観察します。血液中の細胞（白血球・赤血球・血小板）を観察すると病気の診断やその後の処置や治療に直結することがたくさんあります。さらに病気の原因を詳しく調べるために必要に応じて骨髄検査を行います。骨髄検査も技師が細胞を観察しています。血液凝固検査は、お薬の効き具合を調べたり、血が止まりにくい時や術前検査で行います。これらの検査におけつ高度な知識と技術を有する臨床検査技師の育成を図り、より良い医療を患者さまに提供する目的で日本検査血液学会は認定制度を導入しました。全国に約550名の認定血液検査技師があり、そのうちの2人が当院で検査業務に携わっております。

病気を見逃さないため、技師間で情報交換、各種研修会・学会へ参加し日常業務にいかせるよう努力しています。

ジェネリック薬品の採用について

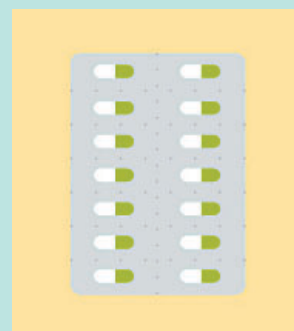
ジェネリック薬品についてはテレビ、新聞でも頻繁に紹介されており、以前本紙にも取り上げましたが、今一度解説させていただきます。

『ジェネリック薬品（後発医薬品ともいいます）とは通常の医薬品が発売から一定期間を過ぎて特許が切れ、他の医薬品メーカーが同一成分の薬品を製造発売するものです。後発医薬品はその薬品の開発にはお金がかからないので価格は安く設定されています。』

注射剤は直接体内に取り込まれますので、添加剤は必要最低限となっており、先発薬剤と同等もしくは他の製剤でも使用されていて安全性が確認されている物を使用しています。

一方、錠剤やカプセル剤では作用が持続するよう徐々に溶けだしたり、貼付剤（貼り薬）では一定の割合で薬が皮膚にしみ込むように工夫されているのが先発医薬品に見られ、後発医薬品ではその様な工夫が先発医薬品と同等ではない物も一部に見られます。』

当院では院内薬事委員会での審議の結果、注射用抗癌剤、注射用抗生物質製剤などにつきましては全国の大学病院、癌センターなどの採用状況なども参考に、信頼のおける後発医薬品を既に使用させていただいております。今後も先発品と同等もしくはそれ以上の安全性、有効性、有用性が確認された後発医薬品に関しては積極的に採用していくことにしており、漸次見直しをしているところであります。



食欲の秋ですが酸っぱいものが上がってきませんか？
ー逆流性食道炎と秋の味覚ー

内視鏡科 部長 永田 信二



逆流性食道炎は胃から分泌される胃酸が、食道に逆流することで、食道粘膜を刺激して起こる炎症です。実際は写真(→)のように食道と胃のつなぎ目に炎症(びらん)を認めます。

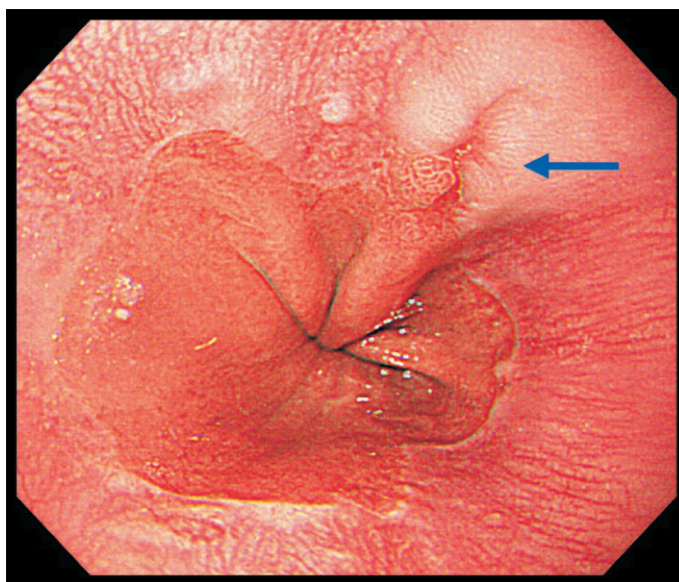
逆流性食道炎の症状として、胸焼けや酸っぱいものが上がってくる感じ、おなかが張ってくる、ゲップが多くなるなど消化器症状のほか、のどのイガイガ感、かれた声などの耳鼻咽喉科症状、慢性的な咳などの呼吸器症状、様々な症状が現れます。これらの症状は患者さん自身の生活の質を損なう重要な因子です。

逆流性食道炎の原因の一つとして加齢があげられます。腰が曲がることによって、胃が圧迫されたり、食道の位置が胃よりも下になり、胃酸が逆流しやすくなります。さらに女性に多い骨粗鬆症や、農作業(今の季節は稲刈り)などで長時間、腰を曲げることが多い作業では、腰が曲がれば曲がるほど、食道と胃のつなぎ目の弁がゆるみ、いっそう逆流しやすくなります。

さて、これからの時期、美味しいものがたくさん出回り、ついつい食べ過ぎてしまうことも多くなると思います。おいしいものは何故か、脂肪の多いものや甘いものであることが多く、これらを消化するため胃酸が多くでて、食道に胃酸が逆流しやすくなります。さらに食べ過ぎると腹圧が上がり、これもまた胃酸が食道に逆流する原因となります。せっかくおいしいものをいただいたのに、逆流性食道炎になってしまったら元も子もありません。

おいしいものを適度にいただくことが、秋の味覚を満喫することにつながります。

逆流性食道炎は薬で治療すれば治りますので気になる症状のある方はかかりつけ医にご相談下さい。



《つばさ友の会》

(日本糖尿病協会 広島県支部 安佐市民病院分会)



《つばさ友の会》は、安佐市民病院受診中の糖尿病患者様と医療スタッフの友の会です。

医療スタッフは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、管理栄養士が入っています。平成11年5月に、正式に発足しました。現在、会員数が54名となっています。

《つばさ友の会》の名称の由来をご紹介しますと、安佐市民病院の安佐は「ASA」と書きます。「TSUBASA」中に「ASA」を盛り込んで、未来へ羽ばたく願いをこめて命名しています。

糖尿病とともに明るく健やかに過ごせるように、糖尿病予防・治療の正しい知識を提供する場として、糖尿病患者様と医療スタッフが共に親睦を図りながら活動しています。

糖尿病広報誌「つばさ」の随時発行や、地域に公開した「糖尿病講演会」では糖尿病の最新情報を聴いたり、合併症予防について日常生活の管理のことや食事療法についての知識を深めたりしています。安佐地区医療施設の糖尿病友の会と合同で行なう「ビーチボールバレー大会」や、新年会の「糖尿病養生訓のかるた大会」は恒例の行事になっています。年配の方から子供さんまで参加して、チームに分かれて熱戦が繰り広げられます。共に爽やかな汗を流し、日頃のストレス解消にもなっています。大会後の糖尿病患者用のお弁当の昼食も好評です。また、「さわやかウォーク&みんなでトーク」と題して、春と秋には安佐市民病院近隣の太田川の土手などを歓談しながらウォーキングしています。各種行事には、会員は家族や友人同伴で参加して、楽しみながら勉強し、悩みや体験などを語り合い情報交換を行っています。

あなたも《つばさ友の会》に入会して、一緒に活動しませんか！

秋には、広島市中央公園で歩いて学ぶ「広島市ウォークラリー」を、複数の医療施設がタイアップして開催しています。毎年200～300人が参加します。5～6人のグループでチェックポイントを探して、クイズやゲームをしながら歩くラリーです。会員以外の方も参加できますので、秋の一日をみんなで一緒に歩きましょう。



糖尿病講演会



ビーチボールバレー大会



ビーチボールバレー大会の後の食事会



新年かるた大会



さわやかウォーク&みんなでトーク

《つばさ友の会》入会申し込み》

- * 対象 一般会員は安佐市民病院受診中の糖尿病患者様
- * 会費 (銀行振込みとなります)

入会金(初回のみ)	500円
年会費	1,500円
合計	2,000円

- ・会員には日本糖尿病協会発行の糖尿病月刊誌「さかえ」(定価：500円)を毎月外来日にお配りします。
- ・行事開催時には実費程度を徴収します。

- * 申し込み用紙
内科外来6診にあります。

- * お問合せ先

つばさ友の会事務局(広島市立安佐市民病院 栄養室)
Tel (082) 815-5211 (内線 2250)
または内科外来6診へお尋ねください。

栄養室 専門員 高崎 栄子

■ 患者さまの権利と責任 ■

広島市立安佐市民病院は、患者さまに安全で質の高い医療を提供するために、次のような権利を尊重します。

医療に参加する権利

患者さまには、医療の計画から医療提供に至るまでのあらゆる過程において、医療に参加する権利があります。

知る権利と学習する権利

患者さまには、自らの生命、身体、健康などに関わる状況を正しく理解し、最善の選択をする為に、必要な医療情報を知り、かつ学習する権利があります。

最善の医療を受ける権利

患者さまには、その必要に応じて最善の医療を受ける権利があります。すべての患者さまには、セカンド・オピニオンを求める権利があります。

医療における自己決定権

患者さまには、十分な情報提供と解りやすい説明を受け、自らの納得と自由な意思に基づき自分の受ける医療行為に同意し、選択し、または拒否する権利があります。

平等な医療を受ける権利

すべての患者さまには、政治的、社会的、経済的地位や人種、国籍、宗教、信条、年齢、性別、病気の種類に関わりなく、平等に医療を受ける権利があります。

患者さまの責任

患者さまには、御自身の健康に関する情報をできる限り正確に医療従事者に伝え、健康の回復に積極的に参加する責任があります。

皆さまの声 最近の内容より

最近、以下のような我々医療従事者にとっては励みとなる嬉しいご意見をいただきましたのでご紹介させていただきます。

5週間毎日放射線治療に通院しております。

火・金曜日は診察があり診察が終わった後、看護師さんからいつも「気をつけてお帰り下さいね」とやさしい言葉をかけていただきます。片道1時間以上かかって通っていますので連続して通院自分のためではありますが、思いやりのある声かけに、明日もがんばって来ようと元気が出ます。

安佐市民病院の大きな組織が一糸乱れず活動してあるのに感動しました。医師・看護師・事務の皆様が無駄話一つせず迅速に行動され患者に接しておられるのを目の当りにすると外来での長時間の待ち時間が苦になりません。病棟のスタッフの方々の「人間を愛する」姿、「職業を愛する」姿を拝見させて頂きましたが、心が打たれました。70才になる自分ですが入院してすばらしい感動をいただきました。今後共、弱い市民の強いサポーターとしてあり続けて下さい。ありがとうございました。

私は今回初めて北5病棟にお世話になりました。

他の病棟の入院経験もありますが、こんなだったかな？と思う程、ここの看護師さんは素晴らしいお仕事ぶりです。朝、今日の担当〇〇です。宜しくお願いします！とさわやかな一声で空気はなごむ、夜も替ると夜の担当〇〇ですと笑顔で採血しても血圧を測ってもありがとう、ごめんね・・・と。ありがとうはこちらが言う言葉。声がけもやさしく、自然体の言葉で命に直接つながる病棟なのにもいつもこやかに接して下さい。恐い検査も、勇気づけられる皆さんの姿に感謝です。

ご意見に対する対応

私たち医療チームは、可能な限り皆様の期待に応え、安心して入院生活を送っていただけるように支援を行う努力をしています。患者様よりお喜びの言葉をいただくことは、より良い医療、看護を提供していく原動力につながるものと思います。退院後も健やかな生活を送られることを、心よりお祈りいたします。

これからもお気づきの点がありましたら、遠慮なくご意見をお願い致します。

今後より一層、皆様に満足して頂ける医療・看護の提供に努めて参りたいと思います。

北3病棟 副看護部長 小瀧 照子

◆「皆さまの声」記入欄

明日の病院行くべきです
先生、有難土さんにもやとして気持ちよく過ごせました
帰国の方も気持ちよく対応以下列これは一筆書か
ねは中々合はれぬと思ひました
ご報告申し上げます
本日に有難土さんへお礼を、元氣になりました。
土曜日はすべてよし、王受感しました。おかげで、
そうであつたほかに思ひました。

日付 21 年 7 月 16 日